

受益者の声（農用地造成）

北見市端野町 北川さん

用水施設の老朽化が著しく、更新にも多大な費用が必要なことから、近年、所有する水田を徐々に畑に転換してきたと話す北川さん。
「端野一区地域は粘性土や泥炭といった土質により特に排水性、作業性などの条件が悪く、自己負担による畑転換には限界があり、転換できない水田が残っていた。今回補助事業により低負担かつ高水準で整地・暗きょ・客土・心土破碎・土壌改良までひととおり整備し、畑転換できたことは本当に良かったと思っている」



「近年の大型機械による営農作業や、排水効果の発現によるほ場の自然な沈下を考えると、暗渠をあと10cmほど深くしたかったとの思いがある。所有ほ場はひととおり事業で整備を終えたので、今後はそれを維持、補完するようなことが主となる。そういった部分的であったり細かい部分についても何らかの事業で対応できれば」というお話しもいただきました。

「暗渠の疎水材は、事業後の自己負担でのメンテナンスも考えると、流通量や経済性により貝殻や木材チップよりも砂利が良い」とのご意見からも、きめ細やかな管理による排水効果の持続が重要と考えられているんだな、との印象を受けました。